

関西大学なにわ大阪研究センター ～違法駐輪排除、分煙化実験～



憩いの場の創生によって商店街の違法駐輪排除を実現し、懸案の課題であった商店街の分煙化をすすめる社会実験活動を展開しています。

以前は違法駐輪の自転車がたくさん放置されていた、りそな銀行南森町支店前

活動の概要

目的	社会的信頼の創生による地域課題の解決
連携メンバー	大阪市北区役所 / 天神橋筋商店連合会 / りそな銀行南森町支店 / 地域住民 ピクデザイン事務所代表 山田悦央氏 / 書道家 今柄紫峯氏 関西大学TAFS佐治スタジオ 関西大学社会的信頼システム創生プロジェクトユニット (Project for Social Trust and Empowerment Process : 略称 STEP) 関西大学なにわ大阪研究センター 関西大学社会学部教授 与謝野有紀 / 同学部教授 林直保子
活動地域	天神橋筋商店街内 (りそな銀行南森町支店ショーウィンドウ前) (大阪府大阪市北区)
活動期間	2010年8月～ (継続中)
費用	文部科学省戦略的研究基盤形成支援経費等

連携の経緯

関西大学は1929年に天六学舎を開設して以来、天神橋筋商店街との関係を築いてきた。2006年からは天神橋筋商店街連合会の協力のもと、社会学部生が「商店街の活性化」をテーマとする調査活動や、商店街訪問客に店舗や名所を案内する「町街人(まちがいで)」活動を展開。2010年のSTEP開設後には、それまでの協力関係を基に、日本初の商店街内の研究拠点「リサーチアトリエ」を開設し、さまざまな地域活性化活動や研究活動を発信することとなった。

解決すべき課題

- (1) 地下鉄出入り口付近の違法駐輪の解消
- (2) 商店街内の憩いの場の設置 と分煙化



りそな銀行南森町支店前で実施されたイベント てんこもりライブ (左) と書道パフォーマンス (右)

大学の役割

本事例は地域が抱える前述の課題を「場の定義の転換」によって解決する社会実験活動である。りそな銀行南森町支店ショーウィンドウ前は、地下鉄出入り口付近であることから、「違法駐輪のメッカ」といわれるほど違法駐輪の多い場所であった。そこで、STEPでは同エリアの社会的定義を「違法駐輪をしても良い場所」から「地域住民が休み、談笑し、待ち合わせができる憩いの場」に転換することで違法駐輪を排除することとした。

上記の計画実現には、商店街からの「社会実験活動の許諾」をはじめ、「設備の新設・撤去の許諾」「ショーウィンドウの利用許諾と展示物の確保」「専門家の助言を受けた空間デザイン」など、多くの団体・個人の協力行動を得ることが不可欠であった。STEPは関係者へのアプローチの他、リサーチアトリエで展開するさまざまな活動を通じて地域との接点の創出を経て、結果的に違法駐輪排除に向けた大規模ネットワークを構築。連携メンバーが資源を持ち寄ることで、興味を惹くいくつもの展示を実施し、「場の定義の転換」を実現した。さらに、STEPの実践研究はプロジェクトユニットとして、また、なにわ大阪研究センターの一部として展開している。

本事例は社会的信頼ネットワークの創生によって協力行動を生み出し、地域課題を解決した実践例である。ただし、この状況を持続的なものにするには「ネットワークを通じた相互の資源交換によって全体の利益が生まれ」「ある二者間の関係維持に第三者がコストを負担し」「特定のメンバーの損失を小さく」しなければならず、STEPでは本事例の持続に向けて現在も活動を続けている。

成果

- (1) 地域住民が休み、談笑し、待ち合わせができる憩いの場の創出
- (2) 違法駐輪の減少と通行人から苦情のあった喫煙コーナーを撤去し喫煙できる商店のマップを作成することで分煙化を実現
- (3) 持続的かつ積極的な社会的信頼ネットワーク形成のための理論構築

今後の展望

- (1) 持続性の担保



本事業が介入する前の、りそな銀行南森町支店前の違法駐輪

研究者の紹介



社会学部 教授
与謝野 有紀
(よさの ありのり)



社会学部 教授
林 直保子
(はやし なほこ)

東京都生まれ。文部科学省の助成を受けた関西大学社会的信頼システム創生センター (STEP) のセンター長として、地域活性化に対する社会的信頼の機能を実践的に明らかにする研究を展開した。膨大な数のプロジェクトを統括し、安全安心や過疎化が進む地方のあり方など、社会的課題の解決に全精力をもって取り組む。
2016年4月より関西大学なにわ大阪研究センター長。

北海道出身。専門は社会心理学。近年は、社会の中で信頼が醸成される条件とはなにか、また、人の信頼感を支えている心理メカニズムとはどのようなものか、という研究テーマに取り組んでいる。